注）以下は「意見書」ではなく、コメントとして提出されたものです。

海老川上流地区に医療センターを移転する危険について

水谷 武司
元千葉大学理学部教授、元「防災科学技術研究所」主任研究員

メディカルタウンに関して感じたことを、推測も交えて概略を述べます。

この地は、縄文前期の入海が沿岸砂州（総武線が通じている所）により閉ざされて出現した潟湖に、台地上のロームなどの泥質物がゆっくりと堆積して陸化した低湿な凹状地で、地震動が大きく増幅され、かつ内水の滞留が生じやすい排水不良地です。

周辺には浸水の危険がほとんどない、よく締まった洪積層で構成された、地震動の増幅が小さい下総台地面が広く分布するにもかかわらず、安全が最も要求されるべき医療施設を、こともあろうにこの軟弱低湿地につくるなどは、全く論外のことです。

たとえ耐震構造や盛り土により建物本体の安全がはかられたとしても、緊急災害時には周辺低湿地の被災などにより、救急医療機能は大きく阻害される可能性があります。

市中央に広い空閑地・緑地があることは決して無駄ではなくて、環境および防災の両面から好ましい事ではないでしょうか。ここは遊水池として保全して周辺地区の浸水を緩和し、大地震火災時の好適な退避場所を提供します。

医療施設は安全な立地が最優先となり、また各地区市民の利用の便から、集中だけでなく、分散配置も考えるべきです。市域の土地条件に適合した土地利用・施設配置を図らねばなりません。

もし低地価でまとまった土地の取得が容易であるという理由で、この土地を選んだのなら、とんでもないことです。どうしてもこの地区を開発利用したいなら、医療施設以外のものにすべきです。なお低地価は、盛り土や耐震化などの追加費用で相殺されます。

この開発計画はその基本理念がまず問われねばならないと考えます。雨水流出計算などは些末なことです。
なお、洪水調整池なるものが本当に機能したという事例は聞き及んでいません。ここで生じる内水氾濫は穏やかな湛水であって、その対策よりも地震対策の方がより重要です。